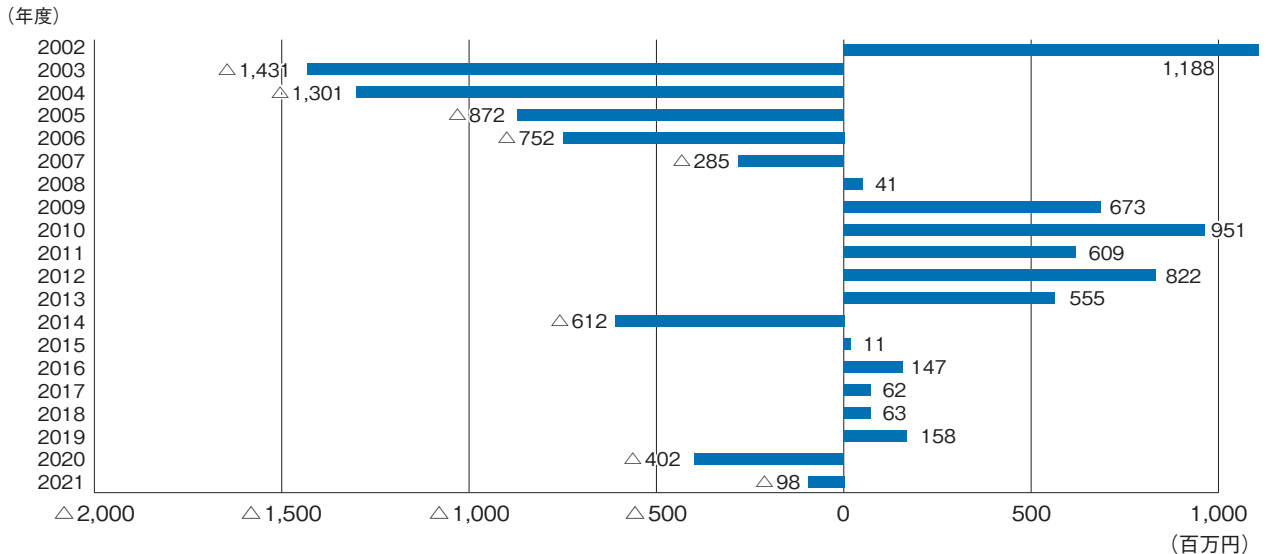


経営状況

決算概要

■ 病院事業の純損益の状況

開院にあたり医療設備・機器を整備したことにより、開院後5年間は減価償却費がかさみ赤字が続きましたが、医療機器等の減価償却が終了した2008年度以降は概ね黒字を確保するなど経営状況は改善しました。しかし、近年では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や院内クラスターの発生に伴い、通常診療の体制が十分に確保できなかったことなどにより、2020年度以降は2年連続で赤字となっています。



■ 内部留保資金の状況

地方公営企業会計制度においては、現金支出を伴わない減価償却費等の損益勘定留保資金、利益剰余金などがいわゆる内部留保資金として認識されます。これらは、施設整備や医療機器購入に係る借入金の返済に充てられるほか、短期的な収支安定のための資金補填としても使用されます。

内部留保資金は、大きな会計基準の変更があった2014年度を境に減少傾向に転じています。2015年度から2019年度の間は、病院自体の純損益が黒字であったため内部留保資金の減少に対する影響は少ないものの、借入金の返済額が減価償却費等を上回ることから、今後、当面の間は、内部留保資金の減少が続く見込みで、それに対応していくことが必要と考えています。

